2024年7月発行　第38号

播磨まちかどニュース With いなみ野学園

瓦版

兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BAN テレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する１５分の番組です。 瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園７６

稲美有線放送事業　65年間の幕を閉じる　～JA 兵庫南～

◆配信日：令和６年６月１日◆

６５年の歴史に幕を閉じた「稲美町有線放送」。地域に根差し、地域の皆さんの期待に応えてきた長年の取り組みは、本当に素晴らしいものでした。改めてその足跡を振り返り、「終了」の様子をお伝えしたいと思います。

稲美町役場のすぐそばにある建物が有線放送電話の拠点。常駐のスタッフは４名で、毎日、地域の情報を放送してきました。スタッフ４名は、先ず取材に出かけ原稿を作成し、次、アナウンスして放送が流れる作業が第一段階。第二段階は、アナウンスのノイズ削除、アナウンススピード調整などの編集作業。第三段階は、アナウンスができあがると BGM をかぶせ、搬送用の機器に流し込み、再びモニターで音声チェックをして自動搬送を待つ。そして最終、時間がくれば自動で搬送されて、家庭の受話器よりお知らせが流れる。それらを４名のスタッフで担ってきました。

１９５８年（昭和３３年）、有線放送電話に関する法律が施行され、稲美町でも昭和３４年に加古・母里地区が、続いて昭和３５年に天満地区の新農村建設事業として導入創設され、それぞれの農協での運用管理で始まったとのこと。スピーカーからは、地域定時情

報が放送され、地区内の家庭同士をつなぐ電話として利用されてきました。

このシステムは、組合員が持つ唯一の通信情報機関として、今までクチコミや回覧板などでの情報連絡手段しか持たなかった農村に、通信情報革命をもたらしました。

昭和５８年当時の放送のようす

加入者の家では、電話機と有線電話があるのが普通で、稲美町では、誕生当時４０００戸以上が加入していました。

ただ、その後は、世の中がデジタルの世界へ進んで行き、インターネットやスマホが普及、加入者の高齢化などで利用者が激減。地域に根付いた有線放送も、公社電話、携帯電話、インターネットと情報伝達の方法が目まぐるしく次々と変遷しいく。そんな中、放送機器のメンテナンスも難しくなり、故障しても部品が手に入らず、他所から機器を譲り受けて何とか凌いだと言うエピソードも聞きました。

直接携わってこられたスタッフのお二人、前田正江さん、池田みどりさんに、話を聞きました。

「迷い犬」のこんな話も。「うちの犬が帰ってこない」と。それを聞いてすぐに放送すると、視聴者から即、返事が返ってきて、「いたよ、見つけたよ」と知らせてくれたこと。正に、「地域が一つ」と思えるエピソードでした。

その「地域が一つ」を合言葉に、地域をつなぎ、地域の輪を広げ、「融和と連帯」を図ってきた「稲美町有線放送」の６５年間。本当にご苦労様でした。

折角根付いたコミュニケーション放送が、６５年の幕を閉じてしまうことは、長年親しんできた住民にとっても、さびしい限りの出来事でした。長年、稲美町でお住まいの方にも有線放送の思い出をお伺いし、たくさんのエピソードを話していただきました。

（左から、田中茂さん、西川嘉彦さん、鷲野隆夫さん）

- 「小学生の頃、私の村にも有線放送電話がつながりました。電話は１０軒で１回線。その回線で誰かが電話をしていると、その回線は使えない。ただ話し声は聞えるので、秘話はできなかった。」
- 「有線は電話だけでなく、放送は地区への連絡事項や、ある時は村の歴史家が村の歴史を語ってくれたりして、非常に有意義に利用されていた」
- 「電話の呼び出しはベルではなく、交換手の人の声で『フタバン（２番）、フタバン』と呼んでもらっていた」
- 「町民へのインタビュー番組でケーキ屋さんになりたいなど子どもの夢が語られていたのが印象に残っている」
- 「訃報の連絡に使われたり、宿直の連絡をしたりと有難かった」

などなど、地域に根付いた有線放送の思い

出は尽きません。

蛸草地区で農業をされている方が、「スマホよりも有線放送の方が、地域のつながりと地域の防犯にも役立っていた」と話されたことが印象的でした。

惜しまれながら終了の日を迎えて、みなさんからも「ありがとう」と感謝の声が届けられていました。改めて、「６５年間」、本当にご苦労様でした。

（ナレーション：大前　小夜子）

播磨まちかどニュース with いなみ野学園７６

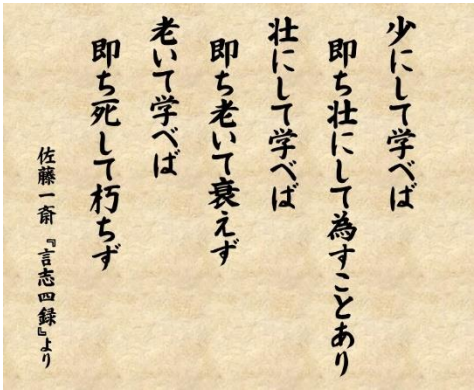
学園長就任あいさつ　・　大学院 18 期生修学研修旅行

◆配信日：令和６年６月１６日◆

４月から、いなみ野学園に就任された坂本哲也兵庫県生きがい創造協会理事長兼いなみ野学園長の「就任のあいさつ」をお届けします。令和６年５月１７日（火）の放課後に学園長室で収録をしました。

ご自身が県職員としてスタートを切った丹波福祉事務所では「ねんりんピック」に携わったこと。以降も長寿社会対策に関わり、今回のいなみ野学園長就任も、高齢者が楽しく学べる大学として「長寿」につながる場であることをはじめに話されました。

そして、江戸時代の儒学者佐藤一斎の「言志四録」から、「少にして学べば即ち壮にして為すことあり　壮にして学べば即ち老いて衰えず　老いて学べば即ち死して朽ちず」について、学ぶことで人生を豊かにし、学び続けることで成長と感動を自分自身の友とできると紹介されました。



長寿国日本は平均寿命が男性８１歳ちょっと、女性８７歳ちょっとで、「人生９０年時代」に到来していること。昭和２０年では平均寿命が男性５８歳、女性６１．５歳だったことを思えば、健康長寿になり体力的にも２０年前とは１０歳は若返っていると話され、元気であって長く自由に使える時間を、どう楽しく充実して送れるか。そのためには、ぜひ、いなみ野学園で一緒に仲間と楽しく過ごしましょうと呼びかけられました。年齢、性別、職種など一切関係なく、同じ興味を持つ仲間が集う場がいなみ野学園ですと。学び続けることで、生き生きとした充実した人生を送れると話されました。

学園長のあいさつにもありましたように、いなみ野学園は、年齢や性別、これまでの職業や仕事を問うなどせず、みんなが同じフラットなところで、仲間同士が楽しくつながる場、そこがいなみ野学園なのです。日々の学び以外でもクラブ活動・ボランティア活動などにも取り組み、学園を上げての「いなみ野祭」などのイベントもあります。

また、５月には、大学の各学科・大学院で修学旅行もあります。うん十年前の学生に戻ったような、そんな楽しい思い出の修学旅行が今年も無事終了しました。

どうぞみなさん、いなみ野学園へお越しください。心から歓迎します。

≪大学院講座第１８期　修学研修旅行≫

ところで、その修学旅行の一場面を最後に紹介します。こちらは大学院２年生が中国地方方面を訪れ、錦帯橋や秋芳洞、そして翌日には元乃隅神社と角島大橋などを巡り、楽しい旅を終えました。１泊２日の修学旅行でした。

（ナレーション：大前　小夜子）

【いなみ野学園　動画配信ホームページ】
https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html

≪編集・発行≫
いなみ野学園　ビデオ制作委員会（いなみ野学園大学院講座・研究生） ☎079-424-3342

いなみ野学園短期集中講座　**参加者募集！**

藤原正美の「話し方講座」（３回講座）

ラジオ関西パーソナリティー・番組ディレクターとして活躍する藤原正美さんを講師に招いて、発声方法、滑舌など話し方の基本やプレゼンテーション・スピーチで役立つ話法を学びます。

講師：藤原正美　氏
（ラジオ関西パーソナリティー）

◇開催日・内容◇
①9/10（火）「話し方のキ・ホ・ン」
②9/17（火）「文章の読み方・伝え方」
③9/24（火）「読み聞かせ
・ラジオドラマを演じてみよう」
◇時　間◇　15：00～16：30
◇会　場◇　兵庫県いなみ野学園　地活棟第3教室
（加古川市平岡町新在家902-3）
◇募集人員◇　20名（先着順受付）
◇受講費用◇　4,500円（全3回）

◇申し込み・問い合わせ◇
兵庫県生きがい創造協会　生涯学習部
〒675-0188　加古川市平岡町新在家902-3
電話　079-424-3380
メール　inamino@hyogo-ikigai.or.jp

詳細はホームページで‥
いなみ野学園　検索